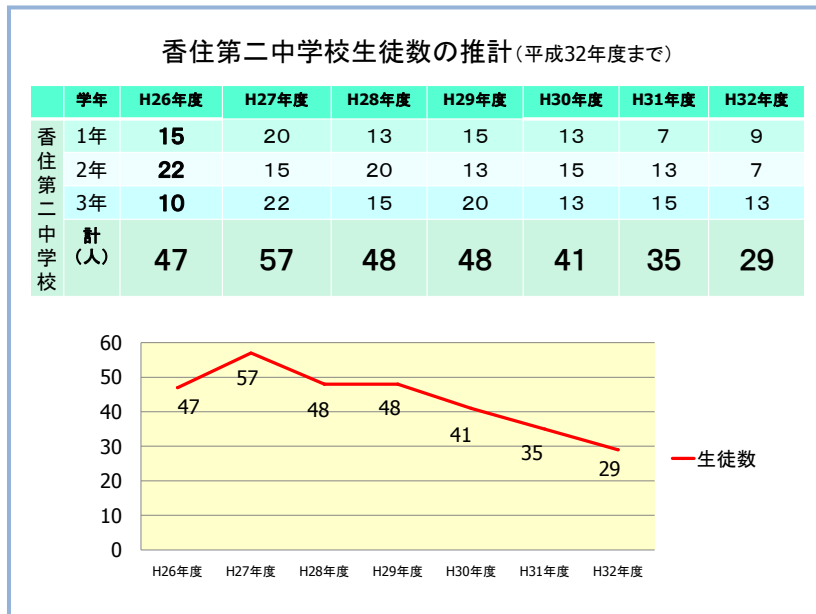


## 香住第二中学校区の教育環境について

### ◆香住第二中学校の生徒、奥佐津小学校、佐津小学校の児童数の推移

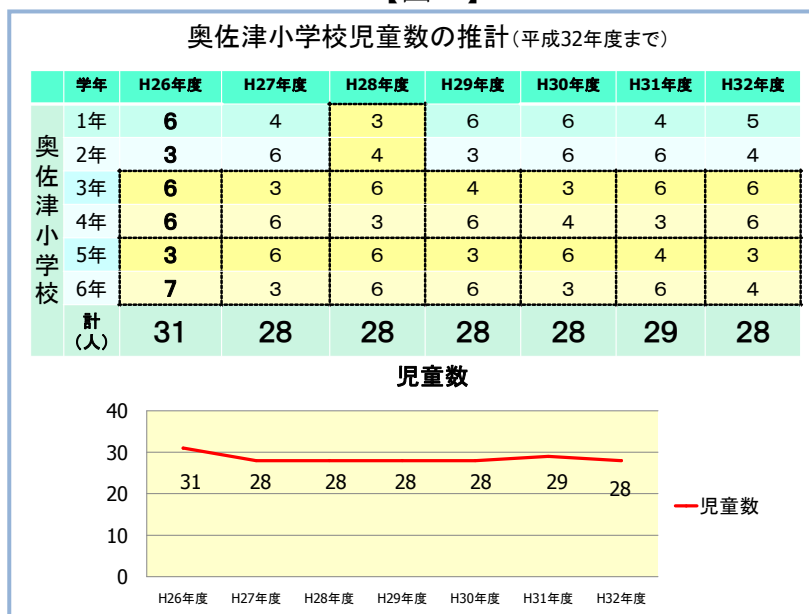
香住第二中学校の生徒数の推移を見てみると、平成32年度には、29人になると見込まれます。

【図1】



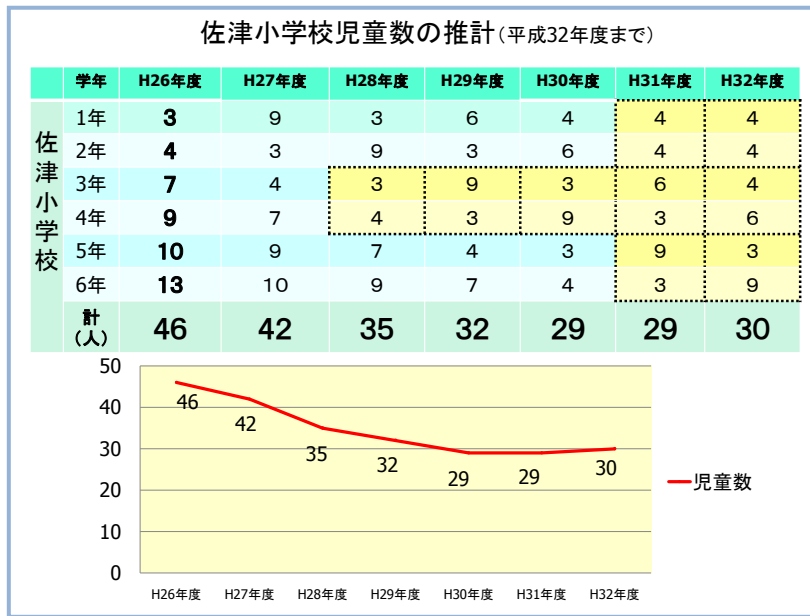
奥佐津小学校の児童数の推移を見てみると、平成32年度には、全校生は28人になると見込まれますが、現在とあまり変化はありません。

【図2】



佐津小学校の児童数の推移を見てみると、平成 28 年度から複式学級が編成され、平成 32 年度には 30 人になると見込まれます。

【図 3】



◆複式学級について

複式学級とは、学級編制の方式で、学年の異なる 2 つの学年以上の児童を 1 学級に編制した学級のことです。

具体的には、となり合う 2 つの学年の児童の合計人数で決められており、1 年生を含む場合はとなり合う学年の児童数が 8 人以下の時、複式学級を編成します。【図 4】

2 年生から 6 年生の場合は、となり合う 2 つの学年の児童数が 14 人以下の場合、複式学級を編制することになります。

複式学級では、基本的に 1 人の教師が 2 学年の児童に同時に授業を行います。【図 5】

【図 4】

**複式学級** (となり合う2つの学年の児童の合計人数)

1年生を含む時	8人以下
2～6年生	14人以下

【例】 1、2年生の場合

1年生(4人) 2年生(4人)

**8人** = 複式学級になる

1年生(5人) 2年生(4人)

**9人** = 複式学級にならない

1年生を含む場合は8人以下の時、複式学級を編成します。

【図 5】

**複式学級** (となり合う2つの学年の児童の合計人数)

1年生を含む時	8人以下
2～6年生	14人以下

【例】 3、4年生の場合

3年生(7人) 4年生(7人)

**14人** = 複式学級になる

3年生(8人) 4年生(7人)

**15人** = 複式学級にならない

人数がひとり増減するだけで、変わるんですね

【図6】は、奥佐津小学校の授業風景です。2つの学年が背中合わせで別々の単元を習っています。複式学級では基本的に1人の教師が2学年の児童に同時に授業を行います。複式学級を編制するような少人数の小学校については、

- ・2学年を1人の教師が教えるため、複式学級のない学校と比べて教員数が少ない。
- ・子どもの数が少ないため、多人数の授業ができない。

などの課題があります。

【図6】

### ◆小規模校について



平成26年2月に実施した教育環境についてのアンケートでは、保護者や町民の皆さんから、小・中学校の教育面の不安について、次のような意見があげられていました。【図7】

【図7】

### 教育環境アンケートから・・・

(小規模校の教育面の不安について)

- ・人数が少なすぎると、学力や能力を向上させる機会が少ないのではないか。
- ・人間関係が固定化され、序列化されるのが心配。
- ・多人数の中で刺激を受けてほしい。人数が多い方が活気がある。
- ・チャレンジプランといっても限界があるのでは？
- ・部活に選択肢がほしい。



しかし、一方で

- ・小規模校ほど子どもと教師の一体感があり、子どもたち一人一人に目をくばり愛情をもって教育することができる。
- ・一人一人の個性や能力をしっかり把握し、個人差に応じたきめ細かい個別指導を行うことにより、個性や能力、可能性を認めて伸ばすことで自ら学ぼうとする力を身につけさせることができる。
- ・地域の人たちとの関わりの中で、地域に根差した教育活動を行っており、一人一人がふるさとのよさをしっかり学ぶことができる。

などがあります。

### ◆子どもたちの教育環境について

子どもたちの教育環境について考える場合、ヒト、モノ、お金・財源を見ていく必要があります。

まず、**ヒト**についてですが、児童、教職員、保護者など学校に直接的に関わるヒトだけでなく、見守り隊、ふるさと教育応援団、地域住民、公民館や各種団体など、学校を取り巻くヒトたちも貴重な教育資源といえます。【図8】

教職員1人当たりの児童生徒数は、香美町では小学校8人、中学校8人で、都市部と比べて手厚く配置されています。児童生徒当たり多くの教員が配置されているので、全教職員が様々な教育活動や行事、日常生活の中で、全校生に担任のように、より効果的な指導を行っています。



次に**モノ**については、学校を取り巻く自然環境や社会的環境、家庭環境、学校施設がそれにあたります。奥佐津、佐津地区の山や川、田畑、海や海岸、豊かな自然環境や温かく、ぬくもりのある家庭や地域もすぐれた教育環境であるといえます。

学校施設は、子どもたちが一日の多くを過ごす学習や生活の場であり、地震などの災害が発生した場合、地域の皆さんの避難場所、防災の拠点として重要な役割を担います。

次に**お金・財源**については、学校の教職員や学校の維持管理に、町はたくさんお金がかかっているのか聞かれることがあります。小・中学校の教職員は香美町の地方公務員ですが、その人件費は国と兵庫県から支出されています。

また、小・中学校に対しては、国から町に地方交付税というお金が入ってきます。義務教育は、憲法上の国民の権利・義務に基づき行われるもので、国は国民が全国どこでも一定の内容と水準の教育を受けられるよう保障する責任を負っているため、学校の人件費や維持経費の多くは国や県が負担しています。

今後、学校の維持管理に多額のお金がかかるのではないかと心配されるところですが、奥佐津小学校の校舎は、昭和47年に新築し、42年経過していますが、校舎の耐震改修は終了していません。体育館については、平成27年度に耐震改修工事を行う予定にしています。

佐津小学校の校舎は、昭和50年に新築し、39年経過していますが、耐震改修は終了していませんので、当分の間、校舎、体育館とも改修、改築の必要はないと考えています。

香住第二中学校の校舎は、平成6年の新築で、耐震基準を満たしており耐震改修の必要はありませんが、21年経過しているため、今後、大規模改修を検討する必要があります。

町の財政が厳しいなら、早く学校統合すればいいのに、という意見をお聞きすることがありますが、学校統合すると、国からの交付税も減ることになるので、町の財政が必ずしも楽になるとは限りません。

ヒト、モノ、お金・財源については、今の子どもたちや地域のあるべき姿を見ながら、5年先までを見通して、学校のあり方を描いています。

## ◆学校統廃合について

文部省（現：文部科学省）は昭和 48 年に公立小中学校の統合について次のような通達を出しています。

- ・ 学校規模を重視した無理な統合は避ける。
- ・ 総合的に判断し、存続し充実する方が望ましい場合もある。

しかし、やむを得ず統合する場合は、

- ・ 児童生徒の通学上の影響、安全面、教育活動の実施への影響などを十分検討。
- ・ 地域住民の理解と協力を得る。
- ・ 統合後の学校の問題や児童生徒への教育効果に及ぼす影響などの問題点を慎重に比較考慮。

町としては、学校統廃合にあたっては、これらの点を十分考慮して、慎重に判断していきたいと考えています。

学校は、子どもたちを教育する場ですが、同時に地域づくりや活性化という観点からいえば、その地域の担い手、人材を育てる場であり、地域を支えている拠点です。

学校がなくなるということは、子育て世代が子どもを育てる拠点がなくなり、地域の拠り所がなくなるわけですから、廃校になった地域の事例を見てみると、人口が流出し、地域の衰退が進んでいくことが報告されています。

小規模、少人数だと、子どもの学力は大丈夫なのかと心配されますが、学校統合について検討する場合、児童生徒数だけで判断するのではなく、学力保障を第一に考える必要があります。学力保障という点については、まさに、きめ細かい指導ができるのは小規模、少人数の学校が有利だといえます。

しかし、何とんでも、子どもたちの学力を伸ばすには、教師の指導力や指導の仕方が大きく影響してきます。それでは、先生たちは、どのように指導力を高めているのかというと、学校の内外で日々研究や研修を行っています。教育委員会では、研修の機会を保障するとともに、指導主事などのスタッフにより学校への指導・助言を行っています。

合同授業として全学年で行うチャレンジプランは、複数の教員が、授業形態を工夫しながら、多人数授業により効果的な指導を行う機会ともなっています。【図 9】

【図 9】

### 🍃 どのように指導力を高めているの？

- ・ 学校の内外で研究や研修
- ・ 研修機会の保障、指導主事による学校への指導



中堅教員研修会



全体研修会



チャレンジプラン授業研修会

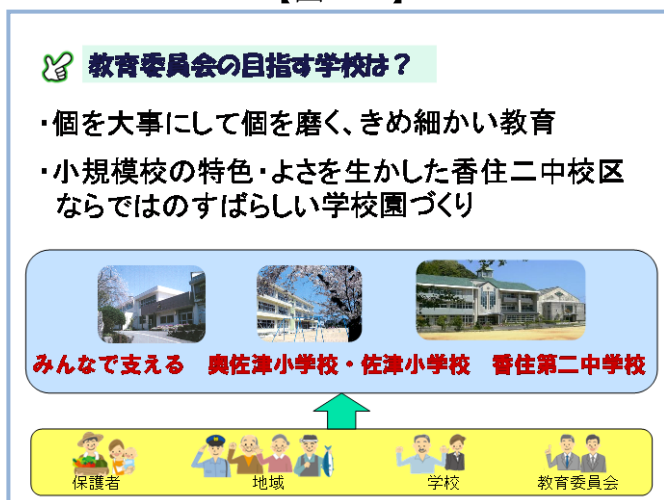
## ◆教育委員会の目指す学校について

これからの時代に求められるのは、さまざまな課題を受け止め、自分で考え行動できる、たくましい人づくりです。

小規模校では、人数が少ないので競争相手がなくて、社会性やたくましが育たないのではないかと一般的に不安に思われていますが、子どもたちに必要なのは自分に打ち勝つ力です。

子どもたち一人一人に丁寧に、個々に応じた目標をあげさせて、挑戦させ、最後までしっかりやりとげさせる。個に焦点をあて、個を大事にして個を磨く、そういうきめ細かい教育ができるのは、まさに小規模校の強みだといえます。【図10】

【図10】



香美町の学校はほとんどが小規模校ですが、少人数のよさを生かした教育を進めています。教育委員会としては、標準的な規模の学校による教育を目指すのではなく、地域の実情に応じて、小規模校の特色・よさを生かした香美町ならではの、奥佐津、佐津地区ならではの魅力あるすばらしい学校園づくりを進めていきたいと考えています。

さまざまな課題が起こる現代社会において、地域の将来の存続は、次代を担う子どもたちがたくましく育ってくれるかどうかにかかっています。

今求められているのは、自立し、努力し、課題を乗り越え、自分で判断して進んでいける能力や志をもった人づくりです。そのような人こそ、香美町を元気にしてくれる人材になってくれるものと確信しています。

小規模校ならではの、奥佐津、佐津地区ならではの地域ぐるみの教育により、子どもたちをたくましく育てられるのです。

